

# ブドウの品種・作型の見直しによる産地維持強化

～種なし品種の拡大および新品種「シャインマスカット」の導入と普及～

## 【要 約】

八女地域におけるブドウの生産体制維持強化のため、種なし品種の拡大および新品種「シャインマスカット」の導入と普及を支援した。また、これらの課題に関する展示ほの設置や講習会等を行うことで、技術の普及を図った。その結果、種なし系品種栽培面積と「シャインマスカット」栽培面積をそれぞれ大幅に拡大することができた。

## 【目 的】

近年、種なし品種の消費者ニーズが高まっており、着果安定による収量の確保の観点からも「巨峰」を中心とした種なし化栽培が広まりつつある。また、種なしで皮ごと食すことのできる青色系新品種「シャインマスカット」は、市場の期待も高く、温暖化による夏季高温着色不良の心配もないため、主力の着色系品種の補完品種として有望である。

そこで、産地の生産体制維持強化を目的として、種なし系品種の拡大と「シャインマスカット」の導入と普及、およびそれに伴う技術体系の確立を図る。

## 1 活動対象の概況

J Aふくおか八女ぶどう部会 （平成 23 年度概数）

部会員数：363 名 栽培面積：190ha 生産量：2,032t 販売額：約 20 億円

## 2 活動の内容等

### (1) 種なし系品種の拡大

栽培管理講習会等を通して技術支援を行うとともに、種なし系品種の販売・栽培面の有益性および老朽化園地における改植の有用性の啓発に努めた。

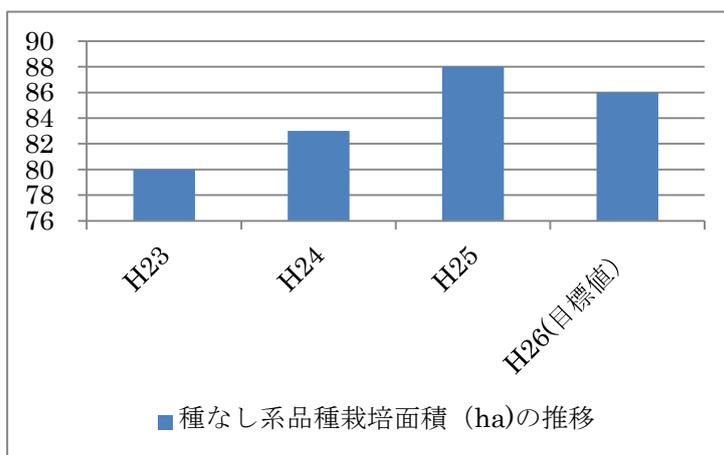


図1 種なし系品種栽培面積の推移



写真1 シャインマスカット栽培指針

具体的な技術支援として、早期加温栽培における生産性と品質向上の効果が期待できる電照栽培技術指導を行った。また、夏季の高温による着色不良対策として、環状剥皮の指導の他、着色向上資材「ミヨビ」等の展示ほを設置し、効率的な処理方法の検討・指導を行った。

## 2) 「シャインマスカット」の導入・普及

管内での栽培技術確立に向けて、普及センター・農協・部会が連携し、品種に特化した指導と対策を行った。特に、生産部会において「シャインマスカット」を対象とした講習会や導入園地の互評会を実施し、栽培技術の普及と品質向上に努めた。また、「シャインマスカット」の成熟特性把握や有色果実袋の比較等の展示ほを実施し、栽培上の課題解決を図った。さらに、それらの現地検討会や展示ほの成績を反映した「JAふくおか八女ぶどう部会 シャインマスカット栽培指針」を平成25年度に作成した。

## 3 活動の成果

### (1) 種なし系品種の拡大

種なし系品種として有望な「シャインマスカット」や「ピオーネ」等の品種は、改植時に、果樹支援対策事業を活用することで、更新が円滑に進んだ。その結果、種なし系品種の面積は、H24～25年度の2年間で、80haから88haへと拡大した。

### (2) 新品種「シャインマスカット」の導入・普及先進技術の普及

「シャインマスカット」栽培面積は、2.83haから6.0haに拡大し、H26年度生産計画8.8haと当初の目標(7.0ha)を大幅に上回ることができた。

## 4 今後の見通し又は課題

種なし系品種に関しては、夏季高温着色不良対策を継続すると共に、早期作型における重油高騰対策の支援を行う。

「シャインマスカット」については、全国的に出荷量の急増が見込まれる中、今以上に品質の維持・向上が求められるため、今後も栽培上の問題解決と品質向上対策の検討を継続する。

課題名：品種・作型の見直しによる産地維持強化 平成24～26年度